



電気通信サービス利用者と インターネットサービスプロバイダー

(社)日本インターネットプロバイダー協会
副会長 立石 聡明

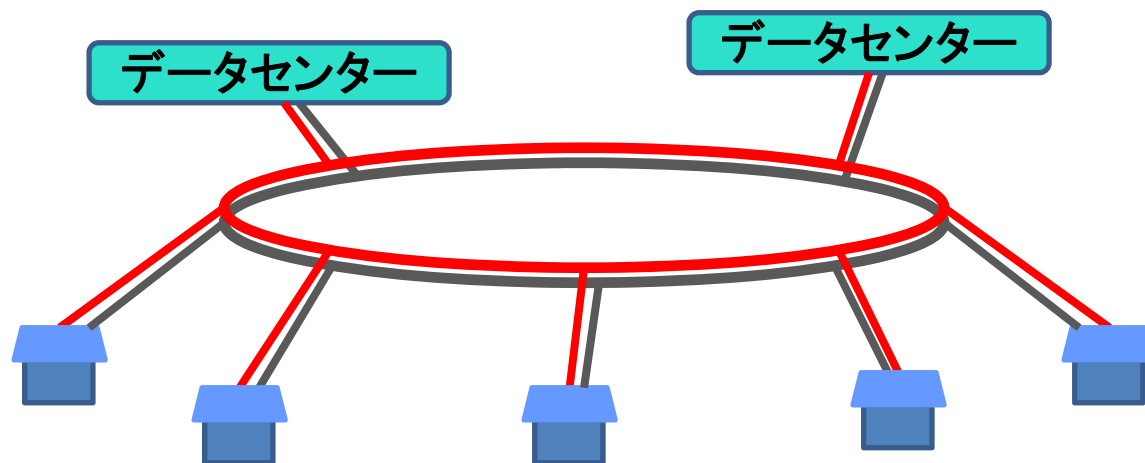
2008年8月28日

インターネットの特性

- ベストエフォート
 - 一般の人には理解されがたい
- 責任分界点の曖昧さ
 - ネットワークのネットワーク
 - 往復でルートが違う
- 国際的な標準でしか動かない
 - 国内仕様は「ガラパゴス問題」となる
- 実態が存在しない
 - 全てが0または1のデジタルデータで構成されている

電気通信業界におけるISPの位置

- 日本のインターネットのインフラ環境は他国とは非常に異なる点がある。特にISPは大まかに分けて3層構造の真ん中に位置する。
- NTT東西等の実際に回線を保有しているキャリアとインターネット接続を提供するプロバイダーが違う。(各ISPがキャリアから回線を借りて接続を提供する)
- 実際にユーザの利用するコンテンツ等は主にデータセンターにあり、ISPと接続することでユーザに各サービスが提供される。



ISPの取り組み



- インターネット接続安全・安心マーク
 - インターネット安全・安心マーク推進協議会をテレコムサービス協会、電気通信事業者協会及びJAIPAで構成。
 - 年3回、各ISPのセキュリティポリシーやプライバシーポリシー及び技術的な脆弱性診断等を行い各ISPのレベルアップを図っている。
- SPAMメール対策
 - OP25B(迷惑メール送信防止措置の一つ)
 - メールサーバの第三者認証システムを検討中

ISPの取り組み

- 各種ガイドライン
 - 通信の秘密の徹底
 - 個人情報保護・自殺予告・広告表示・違法情報・帯域制御等に関するガイドライン
- データエスクロー（第3者へのデータ預け）
 - 大規模災害等によるアカウント情報等の逸失を防ぐ仕組みの創設を検討中（ISPの突然の営業停止等にも対応）
- セキュリティ対策
 - 各種サーバ等の技術的脆弱性を塞ぐ技術や体制を構築中
- コールセンター等カスタマーサービス
 - ISPは基本的に電話サポートを実施
 - 地域によっては無料あるいは低額で出張サポート

電気通信事業における懸念点

- IPv4アドレス枯渇とIPv6移行及びNGN
 - 一般ユーザにはわかりにくいですが、数年で枯渇されると言われている現行のアドレスを次期バージョンへ円滑に移行しなければならない
- 検索エンジン等における知的財産権等について
 - 他にもGoogleのストリートビューなど
- DNS Server
 - インターネットのドメイン名を利用するには必ずこのサーバーを利用
- NTT東西との相互接続における預託金
 - 大手通信事業者の倒産によって約款が改正された

コミュニティとしての取り組み

- リテラシー向上対策
 - 新年度の犯罪が毎年のように出てくるためにリテラシー教育は必要。
 - e-ネットキャラバンをはじめ、既に各社で行っているが、更に手当の薄い分野について検討。
- 違法有害情報対策
 - 通信の秘密や個人情報保護を遵守しつつ、特に違法情報については業界をあげて対処
- Webフィルタリングと第三者機関
 - 携帯電話を中心にフィルタリングが行われているが、これは両刃の剣。導入には慎重に行わなければならない。
 - フィルターされるサイトの評価を巡っては、EMAやIROIが設立される。
 - EMA：モバイルコンテンツ審査・運用監視機構
Content Evaluation and Monitoring Association
 - I-ROI：インターネット・コンテンツ審査監視機構
Internet-Rating Observation Institute